

平成 25 事業年度決算について

1. はじめに

国立大学法人金沢大学は、国立大学法人法第35条及び独立行政法人通則法第38条の規定に基づき、平成25事業年度の決算（財務諸表）を取りまとめて文部科学大臣に提出し、平成26年9月25日に承認されました。財務諸表は、企業会計原則をベースとして、国立大学法人の会計処理を定めた「国立大学法人会計基準」等に基づき作成しております。

2. 平成 25 事業年度決算の概要

【財政状態（貸借対照表）】（平成 26 年 3 月 31 日）

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	124,714	固定負債	41,698
有形固定資産	122,344	資産見返負債	14,856
土地	36,343	センター債務負担金	11,901
減損損失累計額	△1,456	長期借入金	10,614
建物	106,909	その他の固定負債	4,327
減価償却累計額等	△41,805	流動負債	18,552
構築物	14,304	運営費交付金債務	1,122
減価償却累計額等	△6,186	寄附金債務	2,964
工具器具備品	33,798	その他の流動負債	14,466
減価償却累計額	△26,517		
その他の有形固定資産	6,955	負債合計	60,250
その他の固定資産	2,370		
流動資産	18,722	純資産の部	金額
現金及び預金	10,664	資本金	58,646
その他の流動資産	8,058	政府出資金	58,646
		資本剰余金	20,669
		利益剰余金	3,871
		純資産合計	83,186
資産合計	143,436	負債・純資産合計	143,436

※百万円未満で四捨五入しているため、合計額が一致しない場合があります（以下の百万円単位の表においても同様）。

○資産の部 143,436 百万円（前事業年度比 △4,806 百万円（△3.24%））

主な減少要因としては、減価償却の進行等により、建物が 2,672 百万円（3.94%）減の 65,104 百万円となったことが挙げられます。

○負債の部 60,250 百万円（前事業年度比 △4,511 百万円（△6.97%））

主な増加要因としては、補助金等を財源とした実験装置等の取得額が多額であったこと等により、資産見返負債が807百万円（5.74%）増の14,856百万円となったことが挙げられます。

また、主な減少要因としては、附属病院再開発に係る借入金の返済の進行等により、センター債務負担金及び長期借入金が合計2,817百万円（11.12%）減の22,515百万円となったことが挙げられます。

○純資産の部 83,186 百万円（前事業年度比 △295 百万円（△0.35%））

主な増加要因としては、当期未処分利益（当期総利益）の計上等により、利益剰余金が1,114 百万円（40.42%）増の3,871百万円となったことが挙げられます。

また、主な減少要因としては、特定償却資産の減価償却の進行等により、資本剰余金が1,409 百万円（6.38%）減の20,669百万円となったことが挙げられます。

【運営状況（損益計算書）】（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

区 分	金 額
経常費用 (A)	50,029
業務費	48,311
教育経費	2,530
研究経費	3,420
診療経費	15,971
教育研究支援経費	640
人件費	24,346
その他の業務費	1,402
一般管理費	1,197
財務費用	521
雑損	-
経常収益 (B)	51,460
運営費交付金収益	15,247
学生納付金収益	6,278
附属病院収益	23,719
その他の収益	6,216
臨時損益 (C)	△277
目的積立金取崩額 (D)	0
当期総利益 (B-A+C+D)	1,154

○経常費用 50,029 百万円（前事業年度比 +1,121 百万円（+2.29%））

主な増加要因としては、退職手当の増加等により、人件費が537百万円（2.25%）増の24,346 百万円となったことが挙げられます。

なお、教育経費、研究経費及び教育研究支援経費の増加並びに一般管理費の減少については、業務費及び一般管理費の区分並びに業務費の目的別分類への区分の適正化を図ったことによるものです。

○経常収益 51,460 百万円（前事業年度比 +1,286 百万円（+2.56%））

主な増加要因としては、補助金等の当期振替額が多額であったこと等により、その他の収益が621百万円（11.10%）増の6,216百万円となったことが挙げられます。

○当期総利益 1,154 百万円（前事業年度比 △34 百万円（△2.83%））

経常損益の状況に加え、臨時損失として固定資産除却損104百万円及び減損損失185百万円等、臨時利益として固定資産除却見返負債戻入2百万円及び貸倒引当金戻入益10百万円等を計上した結果、平成25年度の当期総利益は34百万円（2.83%）減の1,154百万円となっています。

### 3. おわりに

国立大学法人金沢大学は、平成 25 事業年度決算において 1,154 百万円の当期総利益を計上しておりますが、このうち 61 百万円は、目的積立金として文部科学大臣へ申請しております。

平成 25 年度においては、更なる外部資金獲得に努めるとともに、大学の保有資産を活用した自己収入の獲得、一般管理費節減に向けた更なる全学的な取組、事業評価に基づく予算配分の徹底化など、本学のミッションを達成するために限られた予算・資源を有効活用しました。

なお、法人をめぐる経営環境については、国の厳しい財政事情による運営費交付金の削減をはじめ、大学改革の取組みの強化や施設・設備の老朽化対策に多大な財政需要が見込まれるなど、より一層の経営努力が必要な状況となっております。このような状況下で、より効率的・効果的な大学運営を推進するために、外部資金の獲得や経費節減に向けた取組みの徹底など、引き続き財源基盤強化に努めるとともに、本学の強みを活かした機能強化の取組に対する経営資源の重点化を図ることとし、「魅力的な大学」であり続けられるよう努力していく所存です。

国立大学法人金沢大学

理事（総括・改革・研究・財務担当） 向 智里